

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590500106		
法人名	株式会社和福祉サービス		
事業所名	グループホームひなた		
所在地	宮崎県小林市南西方6286番地1		
自己評価作成日	令和4年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	令和4年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小林市西部に位置する田・畑広がる中にあり、霧島山連山が一望できる環境でもあります。入所されている利用者は地域との交流も日常的に行っており、地域の方も入所されている利用者の方やホームへの理解もして下さり協力等もあります。コロナ禍ではありますが、感染対策を踏まえた上で、季節の行事や屋外活動など積極的に行っています。個人の生活ペースに合わせながら支援行っています。また、併設しているグループホームなごみやデイサービスとの交流もあり、日課にこだわらない支援を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは地域の自治会に加入し、小、中学校があり散歩時に言葉を掛ける機会がある。地域の方からは野菜や、花を届けてもらう事がある。今年はホームが創立10周年を迎え式典を行い、写真を地域にも広報できている。管理者は日頃から職員とのコミュニケーションをとる機会を作り職員に信頼されている。職員は理念に沿った行動指針を意識しながら入居者と向き合い支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様、地域に向けた関わりを目標として掲げ、職員一同で共有し実施している。	理念は玄関入口に掲示している。職員全員にアンケート調査を行い毎年4月に見直しを行っている。朝礼時、理念の中から自分の努力目標を選び実行する事で意識づけにつながっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響もあり、コロナ前のような交流はできていない。毎日の挨拶や回覧板も持っていく等の交流はできている。	地区の自治会に加入し小林市の広報誌を読む事で地域住民であることの意識づけができている。感染症予防の為交流は減少しているが散歩時の声掛けや、窓越しの声かけを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、認知症サポート養成講座等への講習ができていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での報告や話し合いについては、職員会議や申し送りに記載にサービスの向上に努めている。	会議には多職種の委員が参加している。家族は感染予防で参加していないが、資料を配付している。日頃の活動状況や、ホーム内の状況など意見交換を行いサービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	気になる事や分からない事についてはケアマネを通し市役所などの関連事業所へ聞き、協力を頂いている。	行政窓口を訪問しコロナワクチン接種や手続き等指導を受けている。何でも相談できる関係は築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や不適切ケアに繋がるような支援にならないようできている。	身体拘束抑制委員会を中心に身体拘束廃止に係る指針が作られている。出入り口の施錠は朝解除され日中はチャイム等活用している。職員はメンタルケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に繋がるようなケアや不適切ケアについては職員同士で注意しあい、適切なケアの統一を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習する機会が現在なくできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度電話や面会時に説明し、不安や疑問点がないかうかがっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とは日常会話の中で行い、ご家族とは電話や面会時、面談時に意見や要望を尋ねている。SNSも活用し、代表へ報告している。	コロナ禍で家族の面会は少なくなっているが、電話・ライン・リモート等で意見や、要望等確認している。毎月の便りの中に担当者の手紙や写真を郵送している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で意見交換は行っている。	職員の意見を聞く機会を作り、年1回代表が面談を行い職員が意見を言いやすい雰囲気がある。職員会議で入居者の支援の見直しや必要時には短時間でも話し合いを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の職員とのコミュニケーションをとり気持ちや要望を聞いている。年一度のアンケートとカウンセリングを実施。日頃より労いの声かけや体調等をうかがう事を心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍であり外部研修はできていないがリモート研修にて対応している。職場内では研修委員会より研修内容に応じ参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の中、他施設との交流はほとんどなかった。保健所や長寿介護課からの勉強会開催があれば参加し、情報交換行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホーム内の見学や事前面談を実施、困っていることを本人・ご家族より伺っている。また、説明する場所や要望を伺う場所も配慮し、説明させて頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談や電話等で家族の思いを聞くよう心がけている。要望もお聞きし、信頼を得られるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様本人とご家族の要望や思いを聞き、何を優先するかなど職員間で早期に話し合い、支援に含め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様本人ができることは継続して実施して頂き、手伝いが必要な箇所を支援させて頂いている。無理のない範囲で実施し体調等を確認しながら一緒に行う事もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の中、病院付き添いや買い物、自宅外泊など実施できていない。面会もできていない状況の為、毎月写真とお手紙を添え、ご家族様との絆を大切にしている。SNSを活用しリモート面会も実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室や墓参り、近所のスーパーへの買い物など馴染みのある物の関係性を途切れないように実施していたが、コロナ禍の影響でできていない。ドライブなど馴染みのある場所をドライブ等の行事計画を立案し実施している。	家族との面会は窓越しとなっているが、入居者の希望により墓参りに職員が同行し支援している。感染予防に注意しながら、ドライブ等実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	過ごしやすい環境作りに努め、利用者同士ゆっくりと生活できる空間を心がけている。一人の時間が欲しい方もおり、無理矢理な支援は実施していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方、入院されている方のご家族様と施設外で会った場合は挨拶などをして話を聞いている。入院されている利用者様に対しては寄せ書きを送って対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中での要望や希望、意向を見つけ、支援に取り入れている。困難な場合については、どこまでできるか職員会議等で議論することもある。	入居者の日頃の行動や、会話の中から担当者が課題をあげ思いや意向の把握に努め全職員で話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や暮らし方等の把握ができるよう会議や申し送り、ケアプラン、モニタリングに表示し、職員が周知できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人、一人の生活リズム、体調等異なる為、毎日の全身状態の観察を行い本人にあったケアを提供している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーと一緒に日頃の支援の見直しや要望等を組み込み、現状に即したケアプランを作成している。	ケアマネジャーを中心に記録物から課題分析を行い、家族の意見も聞き介護計画が作成されている。モニタリングは3ヶ月に1回実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録用紙への記入や申し送りに活用し情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人にあった支援になるように、話し合いや会議を活用し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響にて地域の学生との交流はできない状態だったが、学生からの手作りレクリエーションが届くなど間接的に協力して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の病状に合わせて大きい病院へとかかりつけ医を変わって頂いた利用者様もいた。その際本人とご家族様に説明し納得された上で対応している。病院側とも適切な医療を受けられるよう支援している。	入居時にかかりつけ医の希望を聞き対応している。協力病院があり訪問診療や、訪問看護を受けている方もいる。通常受診は職員が対応している。体調変化時には、適切な医療を受けられる様、事前に記録を取り受診に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報や気づき、疑問等はその都度看護師に相談している。指示等を受け、必要時は受診している。毎月の受診計画も立案し、安心して受診できるよう取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は定期的に連絡を入れ、情報交換や情報収集を行い、早期退院ができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調や状態を見て早いうちにご家族様に報告及び話し合いを行っている。また、主治医からの説明を受ける機会を作りご家族様にも参加して頂き、現状を知って頂き、今後の支援についても同意を得られるよう配慮している。	看取りのマニュアルがあり昨年1件看取りを行った。体調変化時は主治医や家族と話し合い今後の方向性を決めている。訪問看護との連携があり、看取り後にカンファレンスを行い次につないでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて定期的に救急蘇生法やAED取り扱い、連絡網の把握等を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ前は地域での防災訓練を行っていたが現在は職員と利用者を中心に年に2回実施している。また、台風や地震の災害マニュアルも作成している。	地域との協力体制が出来ている。コロナ禍の為年2回消防署の協力で防災訓練を実施している。備品の準備や非常食の備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者を尊重し、気分を害さないよう声かけや言葉かけを気を付けている。羞恥心にも配慮し排便確認等は本人に聞こえる程度の小さな声で耳打ちで伺っている。	入居者が安心できる言葉かけを行う事を大切にし、呼び方も本人の意向に沿う様にしている。羞恥心に配慮し、排泄確認等は小さい声で聴いたり、しぐさで察し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションを通じて本人の気持ちを聞き出している。話しやすい環境づくりや何でも話せる関係性を気付けるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、本人のペースに合わせて支援を行っている。職員体制が悪い時も職員の都合にならないよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が好む衣類等を選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に嗜好調査を行っており食べたいものがあれば献立に取り入れて頂くよう厨房と連携している。コロナ対策のため準備や片づけは職員で対応している。	厨房に職員1名が配属されホームで調理されている。定期的に嗜好調査を行い、献立に取り入れている。入居者はお膳運びや、台拭きなど出来ることを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分がなかなか摂取できない方には好みの飲み物を提供している。白米を残される方は梅干しやふりかけを提供し食べて頂く工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きについては、個々の口腔内に合わせて実施している。義歯の不具合等は歯科往診を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中に声かけをする事で、排尿失敗にならないよう支援し効果が出ている。パターンを掴むまでは試行錯誤し職員同士話し合いながら実施している。	入居者一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、おむつゼロに取り組んでいる。便秘予防のため、本人の希望する飲み物を提供し水分摂取の促しを行う。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内服薬の調整や、体操や散歩など体を動かさず事を実施。また、こまめな水分提供を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日以外は毎日入浴としている。必ず入浴前に声掛けし入浴されるかどうか伺って対応している。強制的な入浴はせず、本人の意向を大切にしている。	毎日入浴を実施している。入浴剤等好みの物を準備し、ゆっくりとくつろげる入浴を心掛けている。拒否される場合は時間をずらしたり、入りたい時に入浴できる様に工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調をみながら午睡を取り入れて対応している。夜間帯でもぐっすり眠れるよう飲み物の工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	完璧に薬の把握はできていないが、服薬チェックの確認や服薬情報書にも目を通すよう心がけている。特に服薬の変更があった場合は、口答以外にも申し送りにも記載し周知できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の一人の時間も大切に行事への参加を実施している。できることは積極的にして頂き、無理のない範囲でホームでの生活を楽しめるよう取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ対策のため外出は控えていたが、墓参りやちょっとした買い物には参加できた。	天気の良い日は屋外で体操をしたり、同法人のデイサービスを訪問したりして交流を行っている。近隣の散歩や回覧板を届けている。回数は少ないが墓参りや買い物に行く事もある。近くにドライブに出かける等外出の機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望で個人で管理されている方もいるため、なるべく本人の希望や要望に合わせて支援している。通帳やカード、現金の預かりはホームで行っておらず事務所管理となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞い葉書や年賀状は出している。携帯電話をもっている方は電話をされることもある。SNSでのリモート面会も実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けを実施。過ごしやすい環境作りのため、温度・湿度の調整、電気の明るさに十分注意し対応している。利用者様が動く動線に障害物や危険物がないか確認している。	玄関を入ると中央はホールがあり、季節に応じた飾り付けや、行事の写真が掲示されている。ホールからは屋外の景色が目に入り、ソファが並びくつろげる空間になっている。入居者の動く動線に障害物がない環境を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々それぞれ過ごしたい場所が違う為、思い思いの場所で過ごして頂く。周りと関わる事が難しい方には職員が付き添い話し相手になるなど工夫している。居室で過ごされている方は定期的に声掛けしている。(状態把握のため)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるタンスやテレビ、仏壇など本人にあった空間・居室作りに努めている。	居室は日当たり、風通しが良く整理整頓されている。家族の写真や佛壇を置いている入居者もいる。本人に合った家具や品物により、居心地よく過ごせる様工夫がされる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に手作りの表札を掲げ、居室が分かるように工夫している。車椅子の空気入れや椅子のメンテナンスを定期的実施している。		